



びわ湖トラストたより 平成26年 冬号

平成26年2月吉日発行 通巻9号 認定NPO法人 びわ湖トラスト

さんぶうころろ 山風湖浪

に銘じ、実践していきましよう。

「水に流す」ことはもう結構。汚染被害から琵琶湖を守り、美しく、安心して飲める湖水を、私たちが早急に復活させることが琵琶湖への恩返しです。そのため一人一人がその人なりの方法で真剣に琵琶湖の浄化に努力を重ねなければなりません。このことを今年の課題であることに銘じ、実践していきましよう。

この「水に流す」の言葉のためかどうかは別として、「わからなければ…」と、ゴミを川や琵琶湖に捨てる人が後を断ちません。さらには、浄化に経費がかかるから…と、汚染水をそのまま川に流していることも多いようです。それは琵琶湖に注ぐ多くの河川の自然浄化の力の限界を越えさせており、結果として汚染物を琵琶湖に注ぎ込んでいることになりまます。つまり、琵琶湖の汚染被害を拡大し、「しこり」を残しているのです。

「方丈記」にも「行く川の水は絶えずして、しかも、もとの水にあらず」と書かれていますように、川はものを流し去ってくれます。そのため、人は何か問題が起こると、その問題の内容によっては解決の手段として「水に流せ」と言います。「水に流す」とは跡を残さない、換言すれば「しこり」を残さない、ということなのです。

琵琶湖への恩返しを

理事長 山田能裕

【認定NPO】取得

(氏家 淳一)

平成25年11月5日付で、数あるNPOのなかで一定の基準を満たしたNPOであると滋賀県が認めた『認定NPO』を取得いたしました。これにより、賛助会員の会費並びに一般の寄付金について税法上の優遇措置をうけることができるようになります。

◆賛助会費・寄付金の税制優遇措置について◆

個人の場合、確定申告すれば拠出した寄付金、賛助会費の概略40%が還付されます。

例1) 賛助会員個人が 会費3,000円入金した場合
 $(3,000 - 2,000) \times 0.4 = 400$ 円

例2) 賛助会員が 会費の他に例えば10,000円を寄附された場合

$(10,000 + 3,000 - 2,000) \times 0.4 = 4,400$ 円

上記の額が所得税の還付額となります。

今後、賛助会員の会費及び寄付金をお受けした場合、年末に当法人より『寄付金受領証明書』を発送する予定です。

NEXCO 助成金

(熊谷 道夫)

2013年11月27日に西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部から、瀬崎支社長・西村部長・加藤CS課長のご出席を得て、2014年度助成金の目録授与を受けました。びわ湖トラストからは、山田理事長、氏家副理事長、田中理事、藤田理事、中島事務局長代行、熊谷が出席しました。この助成金は、びわ湖に関する湖底調査事業、環境保全事業、環境教育事業などに活用する予定です。びわ湖トラストに対する温かいご支援を心から感謝します。



山田理事長

瀬崎支社長

総会のお知らせ

平成26年度の総会の日程が決まりました

● 日時 ● 平成26年 5月24日(土) 13時30分より

● 場所 ● 大津市浜大津 旧大津公会堂2階 ホール

詳細・出欠の確認は後日郵送いたします
【お問い合わせ】はびわ湖トラスト事務局へ

助成金をいただきました (熊谷 道夫)

平成25年度にびわ湖トラストが実施しました以下の事業に対して、平和堂財団より活動助成金をいただきました。心より感謝いたします。

- ①朽木平良の大トチノキ観察会
7月23日 17家族45名の参加
- ②カヌーに乗ってびわ湖にふれよう
8月 6日 約30家族、83名の参加
- ③環境学習船megumiにのって
琵琶湖の中をのぞいてみよう
9月 7日 子供25名、保護者22名の参加
- ④秋のトチノキ観察会
10月19日 親子連れや留学生、約30数名が参加

◆ 環境教育イベント 参加者の声 ◆

子供連れで何度かこのプロジェクトに参加しています。びわ湖や朽木の山などの自然に触れ、専門の先生による子供向けの講義を聴き、より楽しく体験することができました。

子供の思い出づくりだけではなく、親にとっても沢山の発見がありました。しかも参加費無料。ひょっとしたら親の方が子供よりも熱心だったかもしれません。ただ、あと一つ希望を言うなら昼食を付けていただけるとありがたいな(有料でもいいので) …という位でしょうか。

毎年困るこの長い夏休みに、滅多に見ることのできない貴重な体験の場を提供していただき、本当にありがとうございました。

次の年も是非お世話になりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

沖島での「びわ湖の清掃活動」の実施(予定)

(小川 隆)

平成25年10月5日(土)に実施を予定していた近江八幡市沖島でのびわ湖清掃活動は、荒天のため残念ながら中止しました。中止のお知らせと同時に改めて実施する日程を決めるべきでしたが、秋から冬にかけての琵琶湖は西からの風が強くなり、この期間に漁船を出して行う大型ゴミの収集活動は、安全面から避けるべきとの判断をしました。

ついでには、沖島漁協、NPO法人明るい社会づくり運動、立正佼成会、そしてびわ湖トラストの4者で26年3月末までに実施すべく協議をしています。間もなく計画の詳細とあわせて日程のお知らせをしますが、3月23日(日)、又は30日(日)のいずれかでの実



”観音の寝姿”と形容される沖島

施を検討しています。

びわ湖トラストの設立時から行ってきた「びわ湖の清掃活動」は野洲川河口、奥琵琶湖の葛籠尾崎、そして

沖島へと移り、今回で7回目になります。それぞれ地元漁協の皆さんや自治体のご協力を得て大きな成果を上げて来ました。日程が決まり次第、ご案内いたします。今年度の活動にも多数のご参加をお願いします。

「満月写生と宴」 大津サービスエリアからの展望

(ブライアン・ウィリアムズ)

パヴァリエ大津・グリル「逢味」 2013年12月16日(月) 16時～

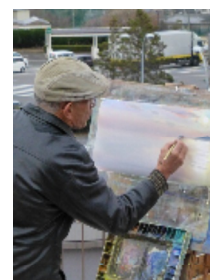


何かを本当に見たければ、それを写生しなければ・・・知っているつもりでいる世界の新たな発見がビックリするぐらい出て来る。ただ自信を持って描ける人はそう多くない。それで一琵琶湖も、現在の生活環境も、トラストの活動も一もう少し深く見て、わかっただけでなく、さらに支援をし続けてもらっているNEXCO西日本さんとの交流の為にもこの行事は開催された。

何かを本当に見たければ、それを写生しなければ・・・知っているつもりでいる世界の新たな発見がビックリ

NEXCOの重役の方々を始め、参加者は興味深く見て、聞いて下さっていたように思う。これを機に琵琶湖や近代都会のあり方について、少しでも新しい目で見てもらえるようになったのではないかなと思う。それに加えてトラストの活動そのものにも目を向けてもらえるきっかけになったと思う。この実演で描いた絵は参加者に35,000円で買ってもらい、トラストのカンパとなった。

まずまず成功に終わったイベントであったと思う。



トチノキ観察会

(田中 三千彦)

2013年10月19日(土)、平和堂財団様と共催の、びわ湖トラスト恒例行事・トチノキ観察会を「巨木と水源の郷をまもる会」様、「県立朽木いきものふれあいの里」様の後援を得て、今回は中牧地区で行いました。

8時30分、大津駅前を貸切りバスで出発。熊谷事務局長のびわ湖や比良山系の話を聞きながら鯖街道を走り、さらに安曇川支流の針畑川沿いの山道に入り、10時過ぎに目的地

の朽木・山帰来(くつき・さんきらい)に到着。地元の皆様の歓迎のご挨拶のあと、水源やトチノキのことについての説明を聞き、いざ出発。



まずは杉林の中のなだらかな道。今回は親子連れ、主催者(平和堂、びわ湖トラスト)のスタッフ、地元ガイドさんに加えて中国湖南省からの留学生9名も参加、総勢30名強のパーティ。3班に分かれて、それぞれガイドさんの誘導で山に入っていました。

間もなく山道は急になり、滑らないようにそろ

そろ進みます。急斜面に沿って歩くのは大変でした。出発して約1時間、やっと樹齢200～500年のトチノキが林立する緩斜面に到着しました。ここでお弁当タイム。お弁当は地元の皆さんの温もりを感じる手作り弁当でした。昼食後、それぞれにトチノキを観察したり、写真を撮ったりして楽しみ、その後、記念撮影。



下山後、出発点の日吉神社にお礼の参拝をした後、山帰来でスタッフの指導のもと、山の木を使ったナイフ・スプーン作り。完成品は素晴らしいおみやげとして持ち帰りました。

心配していた前日からの雨も現地に到着する頃には上がり、午後は太陽も顔を出してくれるほどの好天に恵まれました。関係各位のご指導、ご支援により、下は小学校1年生から、上は70歳超のシニアまで、参加者一同楽しく、意義のある一日を過ごすことが出来ました。改めてお礼を申し上げます。

NPO法人びわ湖トラスト設立5周年記念の集い《ありがとう! びわ湖》報告

(西本 椰枝)

沢山の生き物の生命を育むびわ湖を未来へ伝えていきたいと、2008年に立ちあげた「特定非営利活動法人 びわ湖トラスト」は皆さまのご支援を頂きながら2013年、5周年を迎えることができました。その歩みとこれからの展望のご報告旁々、日頃のご支援に感謝する「5周年記念会員の集い《ありがとう! びわ湖》」を2013年11月16日(土)、大津港の琵琶湖汽船研修室、待合室、喫茶キャピターノを会場に開催いたしました。

第1部の学びの時間では、琵琶湖汽船取締役の桂陽三氏の「ふなずしクルーズ」、愛知川の蔵元藤居本家7代当主藤居鐵也氏の「近江の水と酒」、安土城考古博物館副館長大沼芳幸氏の「華麗なる漁と美味なる食」というそれぞれに興味深い話を聞きました。軽妙で楽しい話に参加者一同、まさに「目からウロコ」を実感するひとときでした。

第2部の交流会開始までの時間にはびわ湖トラストの活動をDVDにまとめた琵琶湖放送制作の「びわ湖トラスト」や活動パネルなどを見ていただきました。

交流会は西澤恵美子会員の〈山菜じゅうべえ〉調



達の山の幸、伊香悦子会員調達の湖の幸、近江の郷土食(朽木の鯖そうめん)、

そして山本宗五郎理事直々の湯がきたてそばの振る舞い、さらに「旭日」など近江の地酒20銘柄近くを楽しんでいただきました。橋本雅彦さま、山本輝彦さまの演奏で会場は大いに盛り上がりました。司会進行は琵琶湖放送坂田しのぶアナウンサーでした。

5周年記念の会を楽しく有意義な時間にしていただきましたこと、まことにありがとうございました。これを励みに10周年に向かって、また実のある活動を続けてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



びわ湖の七不思議 < 後編 >

(熊谷 道夫)

「トラストたより」8号(2013年秋号)で「びわ湖の七不思議」を4つあげました。残り3つは……? 次の通りです。その前に前編のおさらいです。

- ① 葛籠尾崎の湖底遺跡
- ② 今津の磁場異常
- ③ 塩津湾の湖面滝
- ④ 白髭神社の水中鳥居

第五の不思議・・・：湖底の島嶼群

びわ湖にある最も小さい自然の島は、針のように聳えたっている沖の白石。400万年前、今のびわ湖は山岳地帯だったというから、沖の白石は槍ヶ岳のような高い山の山頂だったことになる。

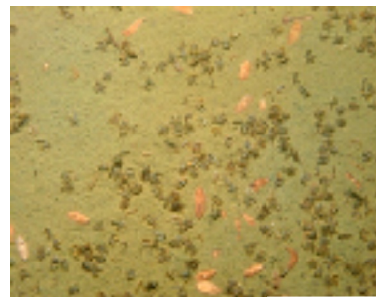
第六の不思議・・・最深部の高密度生物群

びわ湖で最も深い場所は安曇川沖の北東約3kmにある窪みで水深は約104m。2008年8月、この場所にあるわずか25cm×20cmの範囲でびわ湖の固有種であるアナンデールヨコエビ356匹、ビワオオウズムシ24匹を

発見。何故こんなところにこれほど多くの生物が生息しているのか…。びわ湖成因の秘密があるようだ。

第七の不思議・・・移動するびわ湖

今から420万年ほど昔、びわ湖は伊賀上野の辺りにあった。それを古びわ湖と呼ぶ。現在のびわ湖はその古びわ湖が地殻変動で移動してきたものである。ただ140万年前～100万年前の40万年の間、びわ湖は



忽然と消えている。びわ湖最大のビワコオオナマズはその間、どうしていたのだろう。

左の写真は淡探が撮影したびわ湖最深部。ヒルのようなビワオオウズムシとエビのようなアナン

デールヨコエビがたくさん集まっている。共にびわ湖の固有種である。

<< 平成26年度 >> の活動予定

4月

21日(月) megumiに乗ってびわ湖の中を
のぞいてみよう!(車椅子参加者対象)

10月

8日(土)
秋のトチノキ観察会
(朽木)

5月

24日(土) 第7回通常総会・講演会
『故板倉安正さんを偲ぶ』(大津)
31日(土)トチノキ 開花見学会(朽木)

11月頃

第4回 会員の集い
(大津)

7月

29日(火) megumiに乗ってびわ湖の中を
のぞいてみよう!(親子参加者対象)

8月

5日(火) カヌーに乗ってびわ湖にふれよう
(雄琴OPAL)
下旬 風景画家ブライアン・ウィリアムズに学ぶびわ湖写生 (未定)

詳細は決まり次第HPにてお知らせします。お待ちください。



■編集後記■

「霰せば 網代の氷魚を 煮て出さむ」と芭蕉が吟じたびわ湖の氷魚が今年には豊漁でした。去年は不漁でしたが、今冬は獲れたて氷魚のプチプチの歯触りをたっぷり楽しめました。漁業に浮き沈みはつきもの、と漁師さんはおっしゃいますが、豊漁はやっぱり嬉しい。湖水の環境が稚鮎たちにいい状態であるのでしょうか。(西本 椰枝)



山・川・湖「キレイ」を、あしたへ。
認定特定非営利活動法人

びわ湖トラスト

編集・発行:

〒520-0047

滋賀県大津市浜大津5-1-1

TEL: 077-522-7255/FAX: 077-572-7265

URL: <http://www.biwako-trust.com/>

E-mail: biwako-trust@road.ocn.ne.jp